

## 令和2年度 部活動運営に関する方針

兵庫県立香住高等学校

本校は、「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓の下、家庭・地域社会と連携して、夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立する人を育てることを教育方針とする。

その中において、生徒のゆとりある生活の確保や調和のとれた育成、教職員のワーク・バランスの確保及び心身の健康保持を図るため、部活動の実施について以下の基本方針並びに基本方策を定める。

### 基本方針

- 1 生徒の自主性や自立の精神を培い、自発的な参加により、達成感と自己肯定感を育む機会とする。
- 2 学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものとする。
- 3 個性を伸ばし、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むという部活動の意義を再確認し、対話を重視した活動とする。
- 4 生徒の心身の健康管理、事故防止を徹底し、ゆとりの確保等バランスのとれた生活となるよう、適切な休養日や活動時間を設定する。
- 5 より計画的で効率的な部活動指導と教職員の仕事と生活の調和、健康保持の実現を図る。

### 基本方策

- 1 生徒の健康管理に留意し、練習(大会等)前後に健康観察を行うとともに、練習(大会等)中も生徒の動きや顔色などにより健康状態を把握し、状況にあわせて必要な対応を行う。
- 2 練習前及び活動時期や時間帯によっては、必要に応じて適宜、気温・湿度を確認し、「熱中症予防運動指針」(公益財団法人日本スポーツ協会)に示される環境条件の評価を参考に、運動の可否を判断するとともに、熱中症予防に努める。
- 3 心肺蘇生法、AEDにおける応急処置法、熱中症予防に関する講習を生徒、顧問ともに実施する。
- 4 1日の活動時間は、平日2時間程度、土日等の休業日は3時間程度とする。平日の活動は、18時までとし、完全下校は18時30分とする。ただし、公式戦、コンクール等の直前において練習時間の延長が必要な場合は「時間外活動」の手続きを行い最大1時間の延長を認めることがあるが、必ず生徒及び保護者の承認を得た上で実施し、顧問は下校を確認することとする。
- 5 週当たり2日間以上の休養日を設定する。(平日及び土日等にそれぞれ1日とする)  
大会等の関係上やむを得ない事情により、休養日の設定が行えない場合に限り、16週以内のできるだけ早い時期に、平日は平日、休業日は休業日に休養日を設定する。また、考査1週間前および考査中、学校閉庁日は活動禁止とする。
- 6 月ごとの活動計画を生徒、保護者に示すと同時にホームページに掲載する。
- 7 その他、スポーツ庁が定める「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(平成30年3月)」及び兵庫県教育委員会が定める「いきいき運動部活動(平成30年9月4訂版)」に沿った部活動の運営を行う。

# 熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃	運動は 原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
31	27	35	<b>厳重警戒</b> (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28	24	31	<b>警戒</b> (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
25	21	28	<b>注意</b> (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21	18	24	<b>ほぼ安全</b> (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

- 1) 環境条件の評価にはWBGTが望ましい
- 2) 乾球温度を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。